中学１年　国語科　教材別テスト④　模範解答・解説

「詩の世界」／光村図書『国語１』

【このテストの使い方】

本文（詩）は載せていません。**教科書『国語１』の「詩の世界」のページを開いたまま**解答します。大問四は**どの詩を選んでもよい自由選択型**です。そのため、模範解答には「正解の一つの形」ではなく**採点基準（ルーブリック）**を示しています。選んだ詩がちがっても、同じ基準で採点できるようにつくられています。

配点一覧

観点	大問	内容	配点
知識・技能 50点	一	漢字の読み書き（20問）	１点×20＝20点
	二	詩の表現技法の用語（擬人法・直喩・隠喩・反復・倒置法・体言止め・対句・口語自由詩）	２点×８＝16点
	三	語句・漢字の知識（同音異義語・部首名・慣用句・四字熟語・対義語・熟語の組み立て）	２点×７＝14点
思考・判断・表現 50点	四	詩の鑑賞（自分で選んだ一編について記述）	50点
合計			**100点**

【出題のねらい】

① 詩を読むための**用語**（比喩・擬人法・反復・倒置法・体言止め・対句・口語自由詩）を正しく使えるか。
② 詩の中から**表現の工夫を自分で見つけ出し**、書き抜くことができるか。
③ その工夫が**どんな効果をあげているか**を、自分の言葉で説明できるか。
④ 詩の**主題（作者が伝えたいこと）**を、字数内にまとめられるか。
⑤ 自分の感想を、**詩の言葉を根拠にして**述べられるか（「なんとなく好き」で終わらせない）。

一　漢字の読み書き　（１点×20＝20点）

番号	解答	番号	解答
①	ろうどく	⑪	光景
②	よいん	⑫	印象
③	ひびく	⑬	余白
④	えがく	⑭	想像
⑤	ひゆ	⑮	発想
⑥	かんしょう	⑯	沈黙
⑦	くりかえす	⑰	風景
⑧	よむ	⑱	感覚
⑨	やくどう	⑲	静寂
⑩	せいりょう	⑳	鼓動

小計　20点

【注意したい字】

⑤「比喩」は「ひゆ」。「ひたとえ」は×。⑧「詠む」は「よむ」。「読む」と書き分ける（詠む＝歌や詩をつくる）。③④⑦⑧は、読みも送りがなの部分まで書いて正解（「ひび」「えが」だけでは×）。⑭「想像」と「創造」の書き分けに注意（ここは頭の中に思いえがく「想像」）。⑯「沈黙」の「沈」はさんずい。⑲「静寂」は「せいじゃく」。⑳「鼓動」の「鼓」は「つづみ」。

二　詩の表現技法　（２点× ８ ＝16点）

番号	解答	解説・例
(1)	**擬人法**	例「風がささやく」「花がほほえむ」。人でないものに人の動作・気持ちを重ねる。
(2)	**直喩（明喩）**	例「雪のような肌」。「ようだ・みたいだ・ごとし」などの語がはっきり出る。「比喩」だけでは不十分なので×。
(3)	**隠喩（暗喩）**	例「君は太陽だ」。たとえの言葉を使わず、言い切る形でたとえる。
(4)	**反復（反復法）**	例「走れ　走れ　走れ」。リズムを生み、気持ちの強さを表す。「くり返し」でも正答。
(5)	**倒置法**	例「美しいなあ、この海は。」ふつうの語順を変えて、強調する。
(6)	**体言止め**	例「かがやく朝の光。」余韻を残し、印象を強める。
(7)	**対句（対句法）**	例「山は青く　海は広く」。似た組み立てを並べて調子を整える。
(8)	**口語自由詩**	現代の話し言葉（口語）で書かれ、音数や行数の決まりがない（自由詩）詩。「自由詩」だけ、「口語詩」だけでは不十分なので×。文語定型詩（昔の言葉＋音数の決まりあり）と区別して覚える。

小計　16点

三　語句・漢字の知識　（２点× ７ ＝14点）

番号	解答	解説
(1)	**関心**	どちらも「かんしん」。「感心」＝りっぱだと思う／「関心」＝興味をもつ。問題文で「興味をもつこと」と意味を限定しているので、答えは「関心」のみ。
(2)	**ごんべん**	「詠」の部首は「言」。言葉に関わる漢字につく（詩・語・話なども同じ系統）。
(3)	**おと**	「響」の部首は「音」。部首名は「おと」。「ひびく」は×。
(4)	**ア**	「胸を打つ」＝強く心を動かされること。詩の感想を書くときに使える表現。
(5)	**いちごいちえ**	「一期一会」＝一生に一度だけの出会い。「いっきいっかい」は×。
(6)	**抽象**	具体 ⇔ 抽象。説明文でもよく出る対義語。
(7)	**ア**	「日没」＝「日が没する」＝**主語と述語**の関係。「国立」＝「国が立てる」で同じ。イ読書は目的、ウ高低は反対、エ岩石は似た意味。

小計　14点　／　知識・技能　合計　50点

四　詩の鑑賞　（50点）　＊自由選択型のため採点基準を示す

番号	満点の条件	採点基準（部分点）
(1) 4点	**教科書「詩の世界」に実際に収められている詩の題名と作者名が、正しい表記で書かれている。**	題名2点／作者名2点。題名が無記入の場合、**(2)以降も採点できない**ので0点とする（必ず書かせる）。教科書以外の詩を選んだ場合も0点。
(2) 2点	**選んだ詩の連の数が正しい。連に分かれていない詩なら「一連」。**	正しければ2点、ちがえば0点。**行の数**を答えているものは0点（連＝行のまとまり）。
(3) 8点	**①比喩が使われている部分を、詩のとおりに正確に書き抜いている。** **②「A（何）をB（何）にたとえている」の形で、AとBの両方が書けている。**	書き抜き4点（表記のまちがいは－1点）／説明4点（AかBの一方だけなら2点）。 AとBが**逆**になっているものは説明部分0点。 代わりに擬人法・反復・倒置法・体言止めを選んだ場合は、**書き抜き4点＋技法名が正しければ4点**。技法名のみでどの部分かを示していないものは4点止まり。
(4) 8点	**①工夫された表現を一か所、正確に書き抜いている。** **②その効果を、「～ことで、～という感じが伝わる」のように、表現と読者の受け取り方を結びつけて説明できている。**	書き抜き3点／効果の説明5点。 効果の説明が「きれいだと思った」「印象的だった」のような**感想だけ**で、表現と結びついていないものは2点。 「リズムがよくなる」「余韻が残る」「気持ちの強さが伝わる」「情景が目に浮かぶ」など、**具体的な効果**が書けていれば5点。
(5) 10点	**詩全体をふまえて、作者が最も伝えたいこと（主題）が、25～40字でまとめられている。**	主題の中心をとらえている…6点／言葉が具体的で、その詩でなければ書けない内容になっている…4点。 どの詩にも当てはまるような一般論（例「命は大切だということ」だけ）は6点止まり。 **あらすじの要約**になっているものは4点。字数から外れたら－1点。
(6) 10点	**①詩の中の言葉や表現を具体的に引用している。** **②その言葉からどう感じたか・考えたかを述べている。** **③60～80字に収まっている。**	引用（詩の言葉を「　」で示すなど）…4点／自分の感想・考え…4点／文章としてのまとまり・字数…2点。 詩の言葉にまったくふれていないものは最大4点。 「おもしろかった」「よかった」だけで終わっているものは2点。字数から外れたら－1点。

四　詩の鑑賞　（50点）　＊自由選択型のため採点基準を示す　（つづき）

番号	満点の条件	採点基準（部分点）
(7) 8点	**①音読の工夫が具体的（例：ここをゆっくり読む／ここで一度間を置く／くり返しの部分を少しずつ強くする／最後は声を落とす）。** **②その理由が、詩の内容や表現と結びついている。**	工夫4点／理由4点。 「気持ちをこめて読む」「大きな声で読む」などどの詩にも言えることだけなら工夫は2点。 理由が「そのほうがいいから」のように説明になっていないものは0点。 「反復の部分だから」「体言止めで終わるから」のように**技法名を使って理由が言えていれば満点。**

思考・判断・表現　合計　50点　／　総合　100点

【この教材で落としやすいポイント（8つ）】

1. **連**は「行のまとまり」。行数と混同しないこと。
2. **直喩**と**隠喩**のちがいは、「ようだ・みたいだ」があるかないか。「比喩」とだけ答えても正解にならない。
3. **擬人法**は比喩の一種だが、聞かれたら「擬人法」と答える。
4. **倒置法**は語順の入れかえ、**体言止め**は名詞で終わること。名前と中身をセットで覚える。
5. 書き抜きは**詩のとおりに**。かなを漢字に直したり、句読点を勝手に足したりしない。
6. 「何を何にたとえているか」は**向きを間違えやすい**。たとえられる側（本体）が先、たとえる側（比喩表現）が後。
7. 主題は**あらすじではない**。「何が起きたか」ではなく「作者が何を言いたいか」。
8. 感想は必ず**詩の言葉を引用して**書く。これが点数の分かれ目になる。